

青井記念館美術館

はぐくみ会だより

第 54 号

令和 7 年 2 月 28 日



「 図案家・中山 宜 一 展 」

～ 図案帖『國華』から見る宮中染織デザイン ～

昨年秋、東京都港区立郷土歴史館様が特別企画展「ある図案家の仕事」を開催された。その中で富山県立工芸学校図案絵画科を一期で卒業（明治 37）された図案家・中山宜一氏に焦点を当て、大変よく調査研究をなされ当時の図案絵画（デザイン）の仕事の様子がざっと 1 世紀の隔たりを越えて直接的に理解された。この展示のメインは氏のお手製図案帖「國華」である。ご家族の寄贈により、郷土歴史館様の開催動機となった。そのほか関連資料として旧高岡工芸学校所蔵の同時代図案絵画科所属生徒の課題制作々品も多く展示していただいた。詳細は本誌企画展の項を参照してください。

第31回 青井中美展

11月15日(金)
12月1日(日)県内36校の中学校から420点の応募があり
281点が入選した。(内入賞は26点)(絵画部門219点 内147点入選、彫刻・工芸
部門102点 内70点入選、デザイン部門99
点 内64点入選)

各賞受賞者

青井大賞	辻由紀乃(平)
富山県知事賞	宮崎真菜(福野)
富山県教育委員会教育長賞	中田春愛(五位)
最優秀賞	湊栞奈(南星)
優秀賞	米澤史華(牧野)
富山新聞社優秀賞	立野智絵侶(福岡)
チューリップテレビ優秀賞	阿部千彩紀(大門)
優秀賞	門田奈桜(小杉)
富山新聞社優良賞	後藤ひより(大門)
富山新聞社優良賞	北川美月(城端)
チューリップテレビ優良賞	白川実久(津沢)
チューリップテレビ優良賞	前田聖詞(南星)
佳作	釣華乃音(新湊)
佳作	木田皐月(蟹谷)
佳作	荒木瑠葵(小杉南)
佳作	吉國友海(五位)
佳作	森奏音(高岡西部)
佳作	松本稔(大谷)
佳作	有田桜(吉谷)
佳作	細川奈生(城端)
佳作	千代璃空(津端)
佳作	松澤莉子(出沢)
佳作	徳田結衣奈(出町)
特別賞	江尻佳永(新湊)



● 富山県知事賞
「正月」
南砺市立福野中学校
3年 宮崎 真菜



● 青井大賞
「いななき」
南砺市立平中学校
3年 辻 由紀乃



● 富山県教育委員会教育長賞
「Green」
高岡市立五位中学校
2年 中田 春愛

令和6年度 課題研究作品展

2月22日(土) ~ 3月3日(月)

各学科で選ばれた作品を展示した。

令和6年度 課題研究表彰者一覧	賞	科	課 題 名	氏 名
	優 秀 賞	機 械	走行機能付きドライブシミュレータ	千葉 拓実・伊藤 和真・上坂 駿斗・浦上 大翔・清原 莉希哉・横山 琉
		電 子 機 械	計算ゲームのソフトと筐体の製作	宮木 大介・宮下 宗一郎・二口 旬太郎・坂口 大和・佐藤 隆人・島田 煌大
		電 気	フェンシングゲームの製作	和田 侑大・前田 琉翔・早川 瑛球・水木 大翔・高柳 蓮
	賞	建 築	双開一結 ~双方に開き一つに結ぶ住まい~	名田 纏・林 稜都・原 瑛慎
		土 木 環 境	僕らの錬金術 ~クヴァルテットマジシャン~	永森 琥安・濱屋 充蔵・福田 和輝・村田 乙桜
		工 芸	リトルマンミニファクトリー	本保 詩織
		デザイン・ 絵画	空模様の風呂敷の提案	福本 椰美音

企画展

工芸科作品展 2024

3月16日(土)～4月14日(月)

工芸科作品展2024から感じたこと

26H 玉井 健慎

自分はこの作品展を通して皆さんのことを感じることができました。

まずは、自分とは異なる視点があるということです。展示してある作品の中には、自分には思いつかないアイデアで制作してあるものがたくさんありました。例えば、切断して形を変形した銅版を一つのデザインとして捉え、アップサイクルとして利用するというアイデアです。自分はこの作品から、ただ自分の考えていた作品案のまま制作するのではなく、偶発的に発見した良いと思ったものを臨機応変に取り入れるという考え方を学ぶことができました。

また、先輩方が制作された作品からも色々なことを学ぶことができました。特に、自分が二年生から選択した金工コースの作品からは、形や模様など参考になることがたくさんありました。他にも、自分がこれから制作する作品の事例を知ることや、自分のメージを膨らますこともできました。先輩方の作品から感じた良さやアイデアを、これからの作品制作に取り入れていきたいと感じました。



デザイン研究部展

3月16日(土)～4月14日(月)

37H 梶川 恵那

部内のTチームからは、絵画、ポスター、小物

などの自主制作品を、Fチームからは、リメイク品やファッションアイテムなどテーマに沿った衣装を展示させていただきました。作品の展示は部員全員が参加し、協力して会場を創りました。平面作品は、はつきりとした色合いで目を引く展示が多く、立体作品は、展示の仕方に、各自の工夫があり、面白く興味をわくように飾られていました。ファッションの作品は、パネルのコンセプトを読むことで違った見え方になりました。どの作品からも強いメッセージを感じました。デザイン研究部は、各々が興味のあることに取り組んでいるのですが、ここで出会った仲間との共同制作も楽しみの一つだと思いました。個性が光る作品が多く、部員の内面が写し出されたと思います。楽しく鑑賞できる展示にできたと思います。今回のデザイン研究部展で、互いの良いところを再発見することができました。これからも、互いを高めあって活動していきたいです。

図案家・中山亘一展

6月9日(日)～6月23日(日) 7月7日(日)～7月31日(水)

表紙でも紹介した中山亘一氏は、本校卒業後、東京高等工業学校の教授井出馬太郎に師事、また同時に高島屋東京店勤務、をへて独立自営した(明治43)。

図案帖『國華』は彼の生涯の仕事の集大成されたもの。実物は保存維持が難しいため博物館より写真データも借りてパネル化したもの



のを展示した。

中でも注目すべきは大正・昭和初期の宮中装束の布生地図案の成立が高島屋百貨店とのやり取りを通して実現される様子が見え、そして理解される場所。その他、履物や、トロフィー、ボンボン入れなど種々のデザインを中山氏が手掛けたところが見えることだ。また彼は、仕事のかたわら農展を中心に各種展覧会にも参加し、受賞歴も見られる。なかでも雅号に「古城」を用いてくださったことは富山県高岡市民としては榮譽であり、また遠く東京から故郷を思われた氏の切なき内面もうかがわれる。

この展示は好評で、入館者よりいろいろ質問や感想が多かったこと。またご親族もわざわざ東京から来訪され、工芸学校創立130周年事業の1つにもなった。

※7月7日(日)から開催予定の収蔵作品を中山亘一展に変更した。

同窓生作品展

教職員・卒業生

7月7日(日)～7月31日(水)

同窓生作品展出品者(50音順)

猪原 惟 岩城 大介 太田紀久雄
奥川 克臣 河上 健三 米納 睦子
坂井 茂 笹波 美恵 島田 一子
炭谷 尚夫 寺 直彦 中嶋 真也
中山 裕晃 花嶋伊都子 般若 保

教職員出品(50音順)

石黒 律子 大瀧 洋平
菅原 幸 鈴木甲一郎
中川 明美 野島 峰彦

同時開催

工芸生ギャラリー 第30
回 高岡市民美術展の受賞
・入選作品



第3回 図(ふゆをかこむ)展

8月4日(日)～8月25日(日)

富山大学教授 辻合 秀一

令和5年は、富山で日本図学会全国大会やこの大会である NICOGRAPH の開催に尽力したため、図(ふゆをかこむ)展は2年ぶりの開催となりました。富山大学芸術文化学部の辻合研究室は、図を中心とした研究を行っています。「図」は、中国語の漢字で「図」と書きます。くがまえの中に冬という字の構成が、雪国富山を連想できるので、辻合研究室の展示を図(ふゆをかこむ)展としました。辻合研究室の在校生と卒業生そして三上拓哉特命助教を加えた20人の作品を展示しました。写真、イラスト、カードゲーム、アニメーション、インタラクティブな作品などを並べることができました。末筆とはなりましたが、高岡工芸高等学校との御縁により青井記念館美術館で開催できましたことをこの場を借りて御礼申し上げます。



Continuation — つくりづける理由 —

12月8日(日)～1月12日(日)

県内作家によるグループ展「Continuation — つくりづける理由 —」を行いました。

高岡工芸高校の卒業生などを含む20代～50代のメンバーで構成され、計36点の作品を出品しました。作家をご紹介します。安達陽子(木彫)、五十嵐慧(木工家具)、笹波美恵(木彫師、鈴木甲一郎(木工)、谷口知美(日本画・立体造形)、千代狼(創作人形)、星野黒輝昭(平面)、堀内章代(和紙造形)、宮本明日香(絵画)、



の9名となります。様々なジャンルが揃った個性豊かな展示となり、また各作家が制作を始めるきっかけとなった出来事や継続している理由を文章に纏めて作品とともにパネル展示し、来場者の方々に楽しんで頂けるようにと趣向を凝らしました。丁度、学期末の時期の開催だった事もあり、ものづくりを学んでらっしゃる同校の生徒さんに、鑑賞してもらええる時間が多かった事もとても嬉しい出来事でした。とても充実した展示をさせて頂き、大変感謝しております。有難うございました。

第9回 デザイン・絵画科 ギャラリーD

1月18日(土)～2月9日(日)

17H 中村 栞

「第9回 ギャラリーDに参加して」

私は、今回のギャラリーDから沢山の学びがありました。まず、1年生の実習作品展示にはエアブラシ、デッサン、表現技法、レタリングなどがありました。エアブラシは絵の具の色を調節して立体的に見せるようになっており、遠くから見ると立体感のある作品が多くありました。レタリングでは綺麗に文字を描くのは勿論、自分を表現するロゴマークに1人1人の個性が出るよう工夫された作品が多く、どれも魅力的でした。表現技法では「友人の紹介」をテーマに制作されており、決まった枠の中にどう配置するか、何を描いて何を貼るか、どう観る人に伝えているか等、作品それぞれに味があり思わず見入ってしまいました。2年生の作品はアクリル画やデザイン系4コースの作品がありました。どの作品も、さすが先輩！と言わんばかりの迫力や丁寧さがあり、圧倒されました。自分たちも進級したら、このような作品を創るのかと思うと胸が躍りました。自分も1年後、後輩に格好良いと思われる先輩になりたい、と思いました。



同窓生ギャラリー

奥川克臣作陶展

4月28日(日)～5月19日(日)

奥川 克臣(S39 窯業科卒)

私〓奥川克臣は本校卒業後 武蔵野美術大学で洋画を学んだのち愛知県常滑で陶芸修行をしました。

その後小矢部市に戻り、現在の安養寺で夜夫奈美窯(やぶなみがま)を開いております。

用いる黒土は工房近くのもののでそれをベースにして造形・加飾のあと薄く白土をかぶせ焼成します。釉薬は主に長石釉を用いています。作品の特徴は身近ですぐに使え「うつわもの」を割合多くつくり、今回は特に「かき落とし」も



のを多く展示いたしました。色は白色の中に地の色で文様がやわらかく見え隠れする上品で優しい感じを出したいと思っています。また一方で陶石を用い、高温で焼成する磁器に近いかつちりした作品もつくっています。

展示発表は、コロナ前は東京の京王デパートで、グループと個人で年2回ほど、県内で年1回行っていました。現在は個展のみひらいております。

寺直彦木創展

富山木象嵌工芸会作品展

4月28日(日)～5月19日(日)

寺 直彦(S61 工芸科卒)

この度は自身5回目の個展、そして富山木象嵌

工芸会の皆様と3回目となる合同展を開催させていただきました。

昨年に続き教養講座と題し、会期中に生徒さん方にお話をする機会をいただきました。

富山木象嵌継承者の一人である妻から、富山木象嵌の歴史と会の活動を、私からは作品に対する思いと、これからの世代に向けて「挑戦することの大切さ」をお伝えしました。

思えば高校卒業から38年の年月が経ち、一度は諦めかけた創作活動を9年前から再開することができました。こうして母校で個展を開催することができるとも一重に縁する方々のお陰と感謝しております。日々感謝を忘れず、これからも生涯挑戦する思いを忘れず、そして地域社会に貢献できるような自分を目指し頑張っていきたいと思えます。最後にこの度もご協力いただきました方々に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



第157回

「WHO INSIDE?」 中嶋真也 写真展

6月9日(日)～6月23日(日)

中嶋 真也 (H27 デザイン・絵画科卒)
青井記念館美術館での展示は、今回が2回目となります。お声がけいただきありがとうございます。

今回の展示は、生活のふとした瞬間や、撮影現場での小さな発見などを写真に収め、デザインや絵画などの意識のもとトリミングを行いました。
記録としての写真ではなく、よりグラ



フィカルで概念的な観点で作品を選びました。「暖味」というメインコンセプトの元、第三者が観て各々で想起することで完成する作品となっています。

高校時代に聞いた「まず構図!」という、ある先生の一言は今でも覚えていて、その言葉が今の自分に大きく影響を与えていて、作品を作る上でのベースとなっています。

高校を卒業してからは、新潟、東京等と住居を転々としてきました。

現在は長野県に拠点を移し、写真映像作家兼グラフィックデザイナーとして活動しています。

また、夫婦で自家焙煎の珈琲屋も運営しています。

フリーランスになってからというもの、忙しい日常生活を送っているところですが、自分の感性を忘れないように日々作品づくりに励んでいます。

富山県内で作品展示をする機会がありませんでしたので、今回この充実した環境で広々と展示をさせていただけに本当に感謝しています。そして引き続き、この場所での作品展示ができればと思っていますので今後ともよろしくお願い致します。

第158回

高岡市展グランプリ受賞二人展

8月4日(日)～8月25日(日)

神代亜紀男 (S37 電気科卒)
佐藤カオル子氏と神代亜紀男の二人展では、楽しい思い出づくりができました。

高岡工芸高校電気科とデザイン科をほぼ同時期に学んだ二人が、青井記念館美術館で作品展示し、同窓生、友人、画人の多くのご来館を賜り、嬉しい思いと更なるレベルアップの学びを深めることができました。

佐藤氏は人物像を主体の



ダイナミックな世界を表現し、画人からも一目おかれている素晴らしい魅力にあふれた作家です。反面、私は、草花などをモチーフに細密な自然表現であり、二人の作品は、逆対面にあります。

会場では、学生時代の逸話にアジサイ満開でした。数々の発表で受賞を重ねて制作する佐藤氏、他方、趣味の世界を制作してきたのが神代です。終活の一つとしての展覧は、多くの皆様にご高覧いただいた感謝感謝です。

第159回

工芸建築科同窓会展

9月8日(日)～9月21日(土)

14H 早苗 隼生

「工芸建築科同窓会展を見学して」



私は今日、高岡工芸高校の建築科同窓会作品展を見学しました。その中でも特に印象に残ったのが、千利休の「守破離」という考えです。昔から長年にわたって引き継がれてきた伝統を守りながら、打ち破り新しいものを取り入れていくことが大事であるという、そこにある基本精神を忘れてはならないことを学びました。この揭示物の真ん中には大きく、「伝統×革新」と書いてあり、今の社会が必要としていることがテーマになっていると感じました。ずっと引き継がれてきた伝統は、簡単には消せないものだと思います。しかし、その中で新しい文化を取り入れること、昔とは1つ違う工夫を取り入れたること、よりよいものがたくさんできているのだと改めて感じました。

今回は、建築関係の話为例として説明されました。しかし、この考えはこれから大人になり様々な経験をしていく私たちにとって、どんな場合でも大切にしていけるべき考えだと、私はこの作品展で感じました。先輩方の数々の優れた作品から、多くの刺激をいただきました。

第160回

「IKARI」木工舎の仕事と家族の個性

12月8日(日)～1月12日(日)

渡邊伊規子(H6 工芸科卒)

このたびは「IKARI」木工舎の仕事と家族の個性」と題して展示をさせていただきますました。

本校の工芸科で木工を学び、職業訓練校などを経て自分で工房を構えました。それから25年間、私は木で物を作り続けてきました。そんなとき青井記念館で展示しないかと声をかけていただきました。



美術館での展示が決まり、一番の不安は会場の広さでした。私の最近の活動は小物の制作やワークショップなどが多く、大きな作品を制作していませんでした。そこで本展ではそんな私のこれまでの活動に加え、本校のデザイン・絵画科に在学中の子どもの作品、元ガラス作家の夫の作品を展示し、家族展という構成にしました。会場にはそれぞれの個性が表れている作品たちが並び、広く感じていた会場も賑やかに埋め尽くされました。

今回、このような貴重な機会をいただき本当にありがとうございました。これからもそれぞれ制作活動に励んでいきたいと思えます。

特別企画展

本館活動の大きな柱の1つとして地域貢献(収蔵品公開、地域作家招待など)・現役生支援事業が設置されており、今年度は以下の展示が行われた。

工芸生ギャラリー

(現役生徒のためのコーナー)

7月7日(日)～7月31日(水)

27H 前野 彩乃

個展を開催して

今回、青井記念館美術館にて人生初の個展「前

野彩乃展」を開催しました。個展開催のきっかけは、先生に「やってみない？」と声をかけて頂いたことです。私は個展の夢を実現できると思い、嬉しく感じました。

個展の準備中は、全て1人で行おうと一生懸命でした。しかし、学校生活と個展準備の両立が段々と厳しくなり、「本当にできるのかな」と不安を抱えていました。そんな時、友人たちが「手伝うよ」と頼って」と言ってくれて、準備を手伝ってくれました。私は人との繋がりのおかげを、改めて実感しました。個展の作品搬入では友人たちと協力し、作品の活かし方を考えながら「鑑賞する人側の目線」を意識して行うことができたと思います。個展開催にご協力いただいた先生方、友人達、温かいメッセージを届けてくれた来場者の皆様、本当にありがとうございました。

12月8日(日)～1月12日(日)

27H 新宅 恵介
22H 得能 竜雅
22H 屯所 毘人

今回初めての写真部三人での個展をして、同じクラスの人や違うクラス、学年の人、外部の方などに自分たちの作品を見もらうことができていい経験になったと思いました。

自分たちが思っていたよりも多くの人が見に来て「この写真が素敵だった」や「この写真が好き」など感想を書いってくれて、これからの活動に自信をもつて取り組んでいけると思いました。



また、今回の個展を通して初めての経験だったので最初はどうのように飾るのか、どんな写真にするか迷い、見に来てくれる人はいないのか不安になったけれど個展が終わってみて自分たちが思っていたよりもいい出来になって、大成功だったなと思いました。

今回の個展でたくさんの方に自分たちの写真を見せてたくさんの方から「この写真が素敵だった」という感想をもらえた

ので開催してよかったと感じました。この経験を生かしてこれからもいい写真を撮ってまた、第二回を開催できるように頑張りたいと思います。もし次回開催することができたら今回の個展でもっとこうしたら良かったと思ったところを実現できるように頑張りたいなと思いました。

尚美展企画展

文化部作品展

9月29日(日)～10月27日(日)

写真部 37H 山本 悠輔

私たち写真部は、青井記念館美術館で行われた尚美展企画展に、作品を1人1点ずつ出展しました。今年は本校創立130周年ということもあり、たくさんの方々が来場され、私たちの作品を見ていただくことができました。出展作品には決まったテーマはなく、猫や花火などを被写体にした、何気ない日常の瞬間を撮影した作品を出展しました。私たちは個人での撮影活動の他に、学校行事でも撮影活動を行っており、今年の尚美展では、運動会のスナップ写真も多数展示しました。予想以上にたくさんの方に興味を持っていただき、大変励みになりました。写真部員が撮影している姿を見つけたら、生徒の皆さんがカメラに向かって笑顔でポーズをとってくださったら、今後より一層張り切ってシャッターを切って、色鮮やかな記録を残すことができると思います。最後に、日頃頑張っている私たちの活動の成果を、たくさんの方々に見ていただける機会をいただき、感謝の気持ちでいっぱい입니다。ありがとうございました。



編集発行

富山県立高岡工芸高等学校

青井記念館美術館はぐくみ会

住所 933 8518 高岡市中川一ー二〇

TEL (〇七六六二一一一六三〇)

FAX (〇七六六二一一一六三一)